

日本下水道新聞

(11) 2017年(平成29年)6月21日

昨年度は6件の成約

北九州市海外水ビジネス協総会 会員14社に増加

北九州市海外水ビジネス推進協議会(会長 竹澤靖之北九州市顧問)は5月24日、北九州市内で第8回定例総会を開催。これまでの海外展開実績を受け、今年度は一層の具体的な案件形成を目指す。

冒頭、北九州市の北橋健治市長が「発足から7年間の活動により、本市は国の重要施策である『海外水ビジネス展開』のトップランナーとして、国内外の注目を集め

ている。会員も141社にまで増加した。今年度は、これまでにない新たな地域での案件も手がけている。事業展開の一層の加速に努めたい」とあいさつした。

冒頭、北九州市の北橋健治市長が「発足から7年間の活動により、本市は国の重要施策である『海外水ビジネス展開』のトップランナーとして、国内外の注目を集め



北橋市長



富増新会長

新入会員は、九電工、COLT、新菱、月島機械、中日本建設コンサルタント、西日本オートメーション、日本総合研究所、阪神動力機械、古河電気工業。

達成。うち下水道分野は、ベトナム・ハイフォン市の施設情報管理システム整備、インドネシア・シヤカルタ特別州の下水道整備計画策定能力向上に関する本邦研修実施とコンサルティングの3件。

富増会長は就任に際し「市の総合戦略に沿って運営に取り組む。特に、相手のニーズやビジネスの芽をいち早く掴み、会員と情報の共有化を図ることが肝要と考える」とあいさつ。

竹澤前会長、森一政前副会長が退任のあいさつ

で今後の発展を祈念した。

今後の活動に関し、下水道分野では北九州市上下水道局海外事業課の神野右文担当課長がベトナム、インドネシア、カンボジアでの状況を説明した。

総会終了後には、国土交通省下水道部下水道企画課の長谷川史明国際技術企画係長が「下水道分野における国際展開への取組みについて」と題し講演。今年度の新規施策や国際標準化(IISO)の取組み等を解説した。